

ントを開き、連続テレビ小説『エール』に関する写真展などを行う。豊橋

を盛り上げるために色々やっていきたい」と抱負を語った。(木村裕貴)

東海道宿場町文化学び まちなか活性化策提案

あす東大と豊橋技科大が発表



都市計画を学ぶ東京大
学と豊橋技術科学大学の
学生約20人が参加する、

「東海道筋における宿場
町文化の再生」をテーマ
にした「豊橋まちなかワ
ークショップ2020」
が14日、3日間の日程で
始まった。最終日の16日
に成果を発表する。

市中心部の活性化を考
える「豊橋まちなか会議」
の協力で実施。技科大の
小野悠講師が、東大で都
市計画を教える城所哲夫
教授のゼミでかつて学ん
だことが縁となり、今回、
城所ゼミの学生が豊橋へ
訪れることになった。

豊橋についてレクチャー
を受ける学生たち＝西光
寺で

参加する学生の多くが
海外からの留学生で、外
の目の視点で豊橋の活性
化策を提案してもらった
狙いもある。

初日は西光寺でレクチャー
を行い、豊橋の歴史、
寺院の役割と変遷などに
ついて豊橋の基礎的な知
識を学び、その後、4グ
ループに分かれて市中心
部を歩き、市内の様子を
確認した。

3日間でグループごと
に議論し、東海道筋をキ

ーワードに、かつての宿
場同士の連携や、歴史文
化の資源を活用した活性
化策をまとめ、16日午後
3時から西光寺で発表す
る。

モンゴルから東大へ留
学しているガンゾリグ・

ロブサンジャムツさんは
「長い歴史や文化の積み
重ねで今の豊橋の姿にな
った。この歴史と文化を
紐解き、豊橋ならではの
良さを分析し、若者が住
みたくなるような街づく
りの提案を行いたい」と
張り切る。

(竹下貴信)